

「新 4K8K 衛星放送設備視察ツアー」 「After NAB Show 2018」 「日中韓 ICT 企業交流会」 「新 4K8K 衛星放送開始半年前セレモニー」

神谷 直亮

5月中旬から6月中旬にかけて興味深い視察ツアー、展示会、会議がたくさん開催され、忙しい1か月になった。

まず、5月17日に放送サービス高度化推進協会（A-PAB）が主催した「新 4K8K 衛星放送設備視察ツアー」が行われた。今回、視察が実現したのは、QVC ジャパン / QVC サテライト、スカパー東京メディアセンター、NHK 放送センターの3か所である。QVC サテライトは、BS 左遷中継器を使って12月1日からショッピングチャンネルの24時間放送サービスを計画している。チャンネル名称は、「4K QVC」に決まったという。今回見せてもらったスタジオには、すでに池上通信機製 UNICAM XE シリーズの4Kカメラ[UHK-430M]とソニーの30インチ4K液晶モニター[PVM-X300]が導入されていた。QVCは、基本的にカメラをリモコンで操作・制御しているとのこと、昭特製作所のカメラコントロールシステム「TR-XT」が目についた。3階に設置されるライブコントロールルーム（サブ）は、ディバーシファイド（Diversified）社（本社、米ニュージャージー州 Kenilworth）がシステムインテグレーターになって工事中で、中を見せてもらえなかったが、イマジンコミュニケーションズのリアルタイム IP ネットワーク管理ソリューションやアリストネットワークスの IP スイッチャーなどが導入されるという。つまり、非圧縮のピュ

ア 4K HDR 素材と IP ネットワークシステムがベースとなる。その他、導入予定機器としては、グラスバレーの4Kビデオプロダクションスイッチャーとタムラ製作所のデジタルミキシングコンソールを挙げていた。また、編集ソフトについては、Avid の 4K Media Composer を採用するとのことであった。工事の完了予定については、「7月～8月からテスト運用を開始し、12月1日の放送開始に備える」という。

スカパーは、子会社のスカパー・エンターテイメントが110度CS左旋中継器を使って8チャンネルの4K放送を予定している。このため同社の東京メディアセンターでは、新4K放送チャンネルも扱える新マスターコントロールルームと新4K番組のアップリンク用アンテナ2基を建設中であった。3階に配置される新マスターのシステムインテグレーターと屋上に追加されるアンテナのメーカーには NEC が採用された。

NHKは、BS右旋中継器で4K、BS左遷中継器で8Kの放送を行う。今回の放送センター訪問時には、放送予定のソフト制作について力強い説明が行われた。その1つは、宝塚歌劇団5組の新作ミュージカルすべての収録である。担当者は、「8Kの特性である超高精細映像と臨場感に満ちた音響を最大限に生かせるソフトになる」と強調していた。スケジュールについては、雪組、

月組、宙組はすでに収録済みで、星組と花組は5月末と8月初めに収録予定とのことであった。

2つ目は、NHKとルーブル美術館による新たな8K共同制作である。NHKは、2016年に「ルーブル 永遠の美」を完成しているが、今回さらに60分番組を4本制作して、新衛星放送8Kチャンネルで放送するという。4本の内訳は、第1集が16世紀、第2集が17～18世紀、第3集が18～19世紀、第4集が19世紀半ば以降とのことであった。

最後の3つ目は、6月15日から7月16日かけてロシアで開催される「2018 FIFA ワールドカップ」の4K8Kパブリックビューイングだ。6月19日に行われる日本対コロンビアの試合は、8Kによる生中継で東京都内3か所（東京ミッドタウン日比谷アトリウム、iTSCOM スタジオ & ホールニ子多摩川ライズ、東京・千駄ヶ谷のLUMINE O）と大阪（グランフロント大阪 ナレッジシアター）で視聴することができるという。

次いで、NAB（全米放送事業者協会）の公認イベントとして知られる「After NAB Show 2018」が、5月23日、24日に東京・秋葉原 UDX で開催され51社が出展した。

第6回を数える今回の会場では、エーティコミュニケーションズが初出展を果たし来場者の意表を突いた。同社のブースには、



写真1 QVCのスタジオには、すでに池上通信機製 UNICAM XE シリーズの4Kカメラ[UHK-430M]が導入されていた。



写真2 スカパーの東京メディアセンターでは、新4K放送番組をアップリンクするアンテナの建設工事中であった。



写真3 エーティコミュニケーションズは「After NAB Show」で、初出展を果たして来場者の意表を突いた。



写真4 RAIDは、レッドの8Kカメラ「WEAPON MONSTRO」を紹介して注目的になった。



写真5 「新4K8K衛星放送開始半年前セレモニー」には、野田聖子総務大臣（右）と深田恭子4K8K推進キャラクター（左）が揃って登壇した。



写真6 スカパー・エンターテイメントが今までの沈黙を破り、新衛星放送で提供する4K番組8チャンネルを初めて公表した。

今夏より発売が可能になる見込みとなった新型可搬アンテナ「QCT-90」と超小型平面アンテナ「SATCUBE」が並び来場者の目を引いた。「QCT-90」は、インマルサット社のKaバンド・グローバルエクスプレス・サービスに対応し、「SATCUBE」はノートPCサイズで重量がわずか6.8kgのKuバンド対応というのがウリである。

キャノン、パナソニック、レッドの4K8Kカメラの競演も来場者の注目を集めた。

キャノンは、5.9KフルサイズCMOSセンサーを搭載したシネマカメラ「EOS C700 FF」を目玉にして出展した。カメラの発売は、今年7月中旬とのことであった。パナソニックは、5.7Kの画素数を持つスーパー35（24.60mm x 12.97mm）センサーを搭載したコンパクトシネマカメラ「AU-EVA1」に、珍しいルーペ付きのビューファインダーを搭載して展示していた。ルーペのメーカーを聞いてみたら「アメリカのザクト社」との回答であった。

レッドの8Kカメラ「WEAPON MONSTRO」と5Kカメラ「EPIC-W GEMINI」を紹介したのはRAIDだ。ブースの担当者は、「展示できなかったが、8Kカメラに関しては、もう一種WEAPON HELIUMも扱っている」と述べていた。MONSTRO 8KとHELIUM 8Kの違いは、センサーサイズとダイナミックレンジとのことであった。

4K対応のコーデック、SDR/HDRコンバーター、モニターもたくさん展示され関心と呼んだ。珍しかったのは、テクノロジー・ジョイントが、ドイツのSpin Digital社のHEVC/H.265ソフトウェアエンコーダを出展した。ブースの担当者は、「解像度4K 8K、カラーフォーマット4:4:4、

ビット深度12ビットにも対応できる」と語っていた。

印象的だった4つ目は、IP関連の機器やシステムを訴求する出展者が増えた。今回、特に目立ったのは、アリストネットワークスジャパンとテクノハウスである。アリストネットワークスは、1Gスイッチ「7010T」からモジュラースイッチプラットフォーム「7500E」まで17種の高性能IP製品を紹介して存在感を示していた。一方、テクノハウスは、「IP Here and Now」をキーワードに掲げてカナダのEvertz社のIP Routing PlatformやIP Gatewayを訴求した。

さらに、5月28日に「日中韓ICT企業交流会」（主催、総務省）が開催され、韓国のスカイライフ、中国のBOE、日本のシャープのプレゼンテーションが注目を集めた。スカイライフのHan Lee CTOは、「現在コリアサット6衛星で5チャンネルの4K放送を行っている。2017年末時点で4K番組の視聴者は75万に達した。次の目標は、2020年から8K UHD放送を開始すること」と語った。

BOEのLiu Xiaodong社長は、「2013年に8Kディスプレイの販売を開始し、2014年から98インチの提供を開始した。2018年中に27インチから110インチまでをカバーする8Kディスプレイとテレビを揃えて販売する」と強調した。

シャープは、会

場に8Kカムコーダー「8C-B60A」と70インチ8Kテレビを出展して参加者の目を引いた。再生された映像は、パリのローランギャロスで開催中の全仏オープン練習試合を撮影したもので躍動感にあふれていた。

月が変り6月1日には、「新4K8K衛星放送開始半年前セレモニー」（主催、放送サービス高度化推進協会）が東京・第一ホテルで開催された。野田聖子総務大臣、坂井学総務副大臣、上田良一NHK会長、井上弘民放連会長、深田恭子4K8K推進キャラクターなどが勢ぞろいして大変な盛り上がりであった。中でも圧巻は、認定放送事業者11社の代表がすべて登壇して各社の抱負を語った。この一環で、スカパー・エンターテイメントが今までの沈黙を破り、提供予定の4K番組8チャンネルを初めて公表した。内訳は、J Sports 4Kが4チャンネル、スカチャン4Kが2チャンネル、日本映画+時代劇とスターチャンネルがそれぞれ1チャンネル、合わせて8チャンネルである。

Naoakira Kamiya
衛星システム総研 代表
メディア・ジャーナリスト



緊急報道
ハイビジョン映像伝送
Ku-band/X-band

CCTスーツケース 90cmφ型 2タイプ有り
120cmφ型

衛星通信用超小型可搬アンテナ
Suitcase CCT Satellite Communications Terminal



5分で運用開始

IATA対応収納ケース
その他にも1ケース収納から3ケース分割型など各種ケースあり

エーティコミュニケーションズ株式会社
http://www.bizsat.jp TEL: 03-5772-9125

